



## 平成25年の新しい年を迎えて

### 長崎県技術士会会長 山口 和登

新年あけましておめでとうございます。旧年中は会員の皆様に多大なるご協力、ご支援をいただき大変感謝しております。ところで、年頭の御挨拶において過去に述べたことを振り返りますと、一昨年は「安全安心」について述べ、昨年は「想定外」について述べました。今年は何を述べようかと昨年起こったことを思い返しました。昨年、世の中は色んなことが起こりました。私なりに印象に残った10大ニュースを独断と偏見で時系列に挙げますと以下ようになります。1. 岡山県倉敷市で発生した海底シールド事故 2. 価格競争が本格化した国内LLCで長崎にもピーチ就航 3. 高速バス事故で多数の死傷者の発生 4. 42年ぶりの原発稼働ゼロ 5. 東京スカイツリー開業 6. 新潟県南魚沼市で発生した八箇峠トンネル工事現場爆発事故 7. ロンドンオリンピック開催 8. 京都大学山中教授のノーベル賞受賞 9. 中央自動車道笹子トンネル崩落事故 10. 北朝鮮ミサイル発射 10. 衆議院議員選挙で自民党圧勝と挙げましたが、そのうちトンネル関連が3つと多くなりました。最も印象に残ったのは最後の衆議院議員選挙結果です。私なりに選挙結果を分析すると、民主党の大きな敗因は約束（公約）を守ったか、守らなかったからではないかと思えます。

長崎県技術士会関連ですが、昨年の機関紙新年号で、長崎県技術士会は多くの会員に継続研鑽（CPD）の機会・情報を提供することが会の存続・発展に繋がるものと信じて活動を活発化させたいとし、具体的な施策について述べました。言わば公約のようなものです。結果として、6月に総会・研修会の開催、6月に会員名簿の作成、7、8月に会員及び関係機関への会員名簿配布、1月・4月・7月・10月の機関紙 APREN の発刊、長崎地盤研究会との共同勉強会（長崎県技術士会後援）の4月・6月・8月・10月・12月の開催、11月の共同現場見学会の開催、長崎県技術士会の役員会の偶数月の開催（年6回）を行いました。その他、技術士1次・2次試験の案内ポスター配布・受験願書配布説明会の開催、ながさき建設技術フェア2012の後援、長崎県測量設計業協会の技術講習会の後援及び講師派遣などです。以上は長崎県技術士会のホームページ及びメールによる開催予告、結果報告を行いました。

このように昨年の念頭に述べました具体的な施策についてはほぼ実施できたと思えます。また、昨年は犬東顧問の叙勲（瑞宝小綬章）そして叙勲祝賀会の開催、桐原理事の日本技術士会九州本部長表彰、久原理事の水産部会推薦の日本技術士会会長表彰、私の九州本部推薦の

日本技術士会会長表彰とおめでたい出来事もありました。

政治の世界ではありませんが、数は力なり、継続は力なりです。長崎県技術士会の会員数も昨年には145名となりました。まだまだ県内には技術士資格保持者で長崎県技術士会に入会されていない技術士が数多く居られます。また、今後技術士資格を取得される人もおられるでしょう。この方々が長崎県技術士会に入会されるように魅力ある技術士会を作っていく事が必要です。また、技術士の知名度の向上も必要と思われます。知名度の向上のための提言については日本技術士会九州本部発行の冬季号（平成25年1月）の「技術士だより・九州」に投稿しましたのでそちらを参照願います。

次に継続という点では長崎県技術士会が発刊している機関紙 APREN も今回で第40回となります。創刊は平成15年4月ですので今回で丸10年となり、次回から11年目となります。年に4回の発刊ですが、機関紙発刊を継続していくためには機関紙担当の桐原理事をはじめとし、関係者の方々のご努力は欠かせないものであり、心より敬服するとともに、機関紙に投稿していただいた方々に感謝します。また、ホームページの更新継続や年1回の会員名簿の刊行の継続、長崎地盤研究会との共同勉強会の開催、定例役員会の開催など継続していく事が長崎県技術士会の発展には欠かせないこと信じております。

年の初めに当たり長崎県技術士会の発展の施策について述べました。数の確保すなわち会員数の拡大、そして多くの施策の継続の大きく2つの施策です。先に述べた衆議院議員総選挙の結果、第2次安倍内閣が発足しました。その安倍内閣は金融政策、財政政策、成長戦略の3本柱で経済再生を目指すとしています。長崎県技術士会も会の発展施策とし、会員数拡大、多くの施策の継続の2つについて述べましたが、安倍内閣同様3本目の成長戦略が具体化しません。今後、多くの会員、役員の方々のご意見を伺いながら会の発展施策の3本目の柱を探していきたいと思っておりますので、会員各位の多くのご協力、ご支援をお願い申し上げますとともに、今年の皆様のご健康、ご健勝、ご多幸を祈念しまして新年の御挨拶といたします。

## 平成 25 年 新年を迎えて

### 長崎地区代表幹事 大橋義美

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、技術士会の活動に御協力頂き誠にありがとうございました。代表幹事として感謝申し上げます。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

ところで、本年は「公益法人日本技術士会九州本部」の各県に支部結成の動きが活発化することと考えています。既に鹿児島県と大分県に支部が結成されています。

これは、「技術士だより・九州 新年号」にもありましたように、本部長の方針の下に各県に於いて支部結成の検討がなされているものです。この支部は、県内の日本技術士会会員の同意・発議により本部へ申請し発足できるものです。

長崎県は従来から「長崎県技術士会」が主体となって活動しています。日本技術士会九州本部に所属する長崎地区は、本部の「技術士試験願書配布」や「研修会活動」等の諸行事に対し協力、活動を行って来ました。

現在、地区役員等の皆様と支部結成に対する取組みについて相談しています。支部組織となった場合の役員(10名以上)、事務局、会計、活動等の問題があり、このような点をクリアーにした中で日本技術士会会員の皆様に結成へ向けてのアンケートの実施等を行いたいと考えています。アンケート実施に当たっては、会員の皆様のご協力を宜しくお願ひ致します。又、結成の際には役員等の就任なども併せてご協力をお願いいたします。

尚、支部会員は県内の日本技術士会会員で入会希望者のみで結成可能とのことです。長崎支部が結成されても現状通り「長崎県技術士会」と一体となった活動を行うことになるものと考えています。

いずれにしても、技術士間の交流が出来、そして、社会への発信が出来るような技術士会になることを願っています。

本年が、技術士会にとって、そして、会員の皆様にとって飛躍の年になることを祈念しております。

以上

## バランス感覚

### 福田 光博(農業)

若い頃は山歩きを楽しんだ。山を登る時は夢中で脇目も振らず懸命に登るが、下山する時は気持ちに余裕ができて、登る時には全く気付かなかった風景が目飛び込んできて歩を休めて眺めることがある。現在の私はこの下山する時の心境に似ている。

「技術屋」だ「事務屋」だと人を分けて人の価値をも評価し兼ねない風潮を経験したことがあると思う。技術屋の端くれとして生きてきた私としてはこれでいいのかと自戒を込めて考えてみたい。

私共技術屋は自分の世界にどっぷりと浸って仕事には苦勞するが、人間関係にまで気を使って深い関わりを持

ちたいとは思はない。話すのもぶつきらぼうで相手はどう受けとめるかなんて気にもとめない。技術屋は口下手でいいんだとさえ思っている。要するに、技術屋はコミュニケーションの能力があまり得意ではない。しかし技術者の仕事を行うに当ってもコミュニケーション能力は必要である。

公共事業は用地買収や補償が解決しないと工事は実施できない。地権者との交渉は大変重要である。技術屋も工法の問題で地権者と交渉することがある。交渉では先ず地権者の話をじっくりと聞きながら、相手の立場を理解して話をまとめなければならない。

system engineer の場合も、例えば銀行の ATM が効率の良いプログラムであっても、使い方が難しいと、お年寄りなどが扱うことができない。

技術屋は、論理的に考えることができる、情に流されない、機械に強い等が良いところである。一方事務屋の良いところはバランス感覚であり、人付き合いが上手でコミュニケーション能力を持っているところである。短所は情に流され易い、論理的に考えるのが苦手なところであろうか。

これからの時代は「技術屋だ」「事務屋だ」と分けていくことは許されるものではない。「技術屋」「事務屋」の垣根を取り払い、お互いの良い点を学んでコミュニケーション能力やバランス感覚を高めて世の為、人の為に尽せる社会人になることが求められている。

垣根を取り払ってバランス感覚のすばらしさを身に付けた私共の手本となる人が現れた。「ips 細胞」を作成して、昨年、ノーベル賞を受賞された京都大学の山中伸弥教授である。山中教授の偉大で輝かしい業績は勿論であるが全国民の心を打ったのは山中教授の人間性のすばらしさであった。山中教授のマスコミに向ってお話しされる時の立居振舞いであった。人当たりが柔らかく、周りの人に対する気配ができていて、謙虚で、ユーモアも交えた話ぶりが感動を与えたのである。更に驚くことには山中教授は特許を取られてから論文を発表されたそうである。社会の仕組みを知り戦略も、ちゃんと心得ておられたのである。この点が今までの研究者と違っているのではないだろうか。特許を先に取られたのはあれだけの研究は大きな利権がからんだ競争なるからであろう。特許料を安くして多くの研究者に研究の機会を与えて、一日でも早く難病に苦しむ患者さんを治したいと願っているからである。実にバランス感覚の優れた人である。早速、ips 細胞の技術が、ガンや感染症治療に使える可能性ができたことと日本の二つの研究チームが発表したことを正月の新聞が伝えていた。

私も相手の話に耳を傾け、積極的に人と交わり、時には小説も読んで固い頭を柔らかくにしてバランス感覚を身に付けたい。

## 技術士の資格試験を終えて

本田 直幸（建設：扇精光（株））

### 1. はじめに

私は、建設コンサルタントの業務に従事し、今年で22年目となりました。工業高校の在学時、測量士の資格は知っていましたが技術士の資格は名前を聞いたことがある程度でどのような資格かも解らず、自分が目指すようになるとは全く思っていませんでした。高校を卒業し会社に入社した後、建設コンサルタントに技術士の資格が必要であることは解りましたが、身近に技術士はいなかったため自身が目指すような資格とは感じられず、仕事を覚えるのに精一杯でした。

その後、技術士の資格を持たれた方が入社されるに従い、平成10年頃から社内で技術士習得への機運が高まり、自身でも漠然と技術士へチャレンジしてみようと思うようになりました。

### 2. 技術士資格試験に向けて

平成14年に初めて技術士の二次試験を受験し、その後も一次試験を合格した後の平成18年、平成19年と独学で2度受験致しましたが、勉強方法も解らず全然合格するレベルに達していませんでした。社内でも同様の受験者が多く、このままでは誰も合格しないのではとの危機感により、平成20年から今度は二次試験に向けての勉強会を始めることとなりました。

勉強会は社内の技術士が講師となり月1回で開催し、その度にテーマを決め次の勉強会までに論文を作成し提出することとし、その論文を講師の方が添削し勉強会参加者全員で意見を話し合う形で行いました。文章力が無かった私ですが、強制的な論文作成と講師の方の適切なアドバイスにより文章力が向上し、段々との確な論文が書けるようになり、RCCMの資格試験は1回で合格することが出来ました。

勉強会を始めた1年目は、まだ資格習得に向けて心構えが不十分でしたが、その年に後輩が社内で初めての合格者となり、次の年からは危機感を持って勉強に励んで行きました。その後、勉強会を始めて3年目となる平成22年に二次試験（建設部門）を合格し、晴れて技術士の一人となる事ができました。

### 3. 技術士となって

技術士の資格習得に際しては、勉強会の講師をして頂いた二人の技術士および社内の方々には非常にお世話になり、ありがとうございました。一人で受験するのではモチベーションを高めるのが難しいですが、社内や仲間と一緒に資格習得に向けて励んでいけば必ず合格が見えてくると思います。

目的が不明確な状態で技術士となった私ですが技術士となった現在は、この名に恥じないよう豊富な知識を習得し、事業が円滑に進行するように創意工夫して行きたいと思います。

今後は、技術士として社会資本整備に貢献するとともに、

技術士の新たな分野へもチャレンジして行きます。

### 機関誌発行担当者より

明けましておめでとうございます。機関誌も今年で丸10年、今回の新年号で40号を数え、私が担当させていただいてから早6回目の新年号となりました。組織は人であり、人を活かすことが組織を活性化させることです。ここ数年特に若い技術士の方に多くご入会していただいていることは今後の長崎県技術士会をより活性化させるため特に喜ばしいことと思っています。

長崎県技術士会活動の柱の一つである機関紙をさらに充実したものにするためにも私自身を含めて会員の皆様の機関紙への関わり方、あり方を見直す1年にしたいと思います。会員の皆様のご協力宜しくお願い致します。

なお、今年6月頃には会員名簿も一部変更して発行する予定です。その中で現在掲載されている登録部門のほか、専門分野についても皆様からお聞きして掲載する予定です。また本年1月以降ご入会された方は今年度の会費が無料となり、次回発行の会員名簿に確実に掲載されますので、今年度合格者と合わせて入会についてご勧誘をお願い致します。

大栄開発㈱ 桐原 敏

〒857-1151 佐世保市日宇町2690番地

TEL：0956-31-9358、FAX:0956-32-2711

E-mail：s.kirihara@daieikaihatsu.co.jp